

【職業訓練等の実施者割合】 31.9%

キャリア・アップを目指し、仕事のかたわらスキル・アップに励んでいる県民はどれくらいいるのだろうか。

2007年就業構造基本調査によると、県内で仕事をしている人（有業者）63万4100人のうち、職業訓練や自己啓発を行なっている人は20万2400人。割合では31.9%となり、全国ワースト3だ。

職業訓練や自己啓発活動は、職業能力の開発や定着率の向上にとって重要な活動だといえる。実際、職業訓練・自己啓発活動者の割合が低い県は、失業率が高い傾向がみられる。

年代別でみると県内の若年層（15歳～34歳）の活動者割合は、36.3%で全国最下位。若年者の失業率や離職率が高い県内において職業訓練などは今後、ますます重要だ。職業訓練を受けてスキル・アップの第一歩を踏み出してみたいか…。（海邦総研／島田尚徳）

(2007年)

都道府県	実施者割合 (%)	※失業率 (%)
47位 青森県	30.8	5.6
46位 秋田県	31.8	4.5
45位 沖縄県	31.9	7.4
44位 高知県	32.4	5.0
全国平均	36.6	3.9
4位 東京都	40.5	3.9
3位 滋賀県	40.8	2.6
2位 神奈川県	41.1	3.8
1位 香川県	44.7	3.5

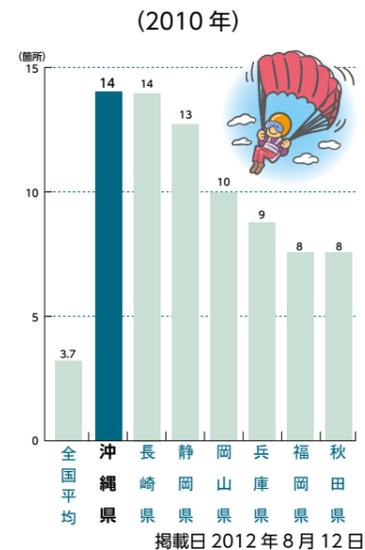
掲載日 2012年8月5日

【パラグライダー等のフライトエリア数】 14箇所

上昇風を操り、壮大な自然を一望しながら上空を飛ぶスポーツがハングライダーやパラグライダーだ。性別・年齢問わず取り組みやすくファン層も広い。輝く太陽に紺碧の空が爽やかなこの季節、ライディング目的に沖縄を訪れる旅行者も多いようだ。

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟の資料から県別にハング・パラグライダーのフライトエリア数を算出してみると、沖縄県内では14箇所。長野県に並んで多い地域となっている。難易度が比較的安く、初心者でも体験飛行が挑戦可能なエリアが多いのも利用者には魅力のようだ。

フライトエリアは安全に発着できる場所が確保され、地元自治体や住民の飛行許可が取れば、有志での管理・運営も可能なよう。安全飛行を第一に、沖縄の空を楽しみに訪れる観光客動員数の「上昇風」効果にも期待したい。（海邦総研／屋比久有紀）

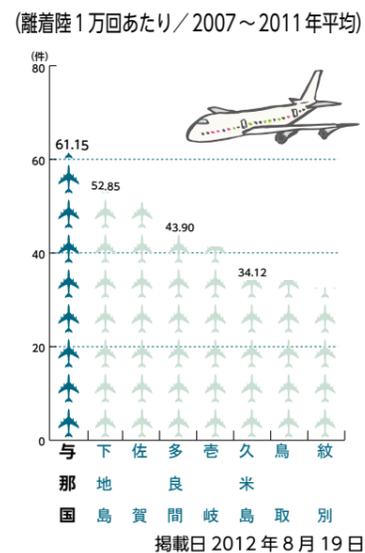


【バードストライク件数】 9.74件/離着陸1万回あたり

「バードストライク」とは、鳥が構造物に衝突する事象で、主に航空機と鳥が衝突する事故を示すことが多い。エンジンの損傷や航空機の空港への引き返しなど、バードストライクによる損失は、国内だけでも毎年数億円規模にのぼると言われている。

国土交通省「2011年バードストライクデータ」を基に離着陸1万回あたりの県別のバードストライク件数を算出してみた。沖縄県内では鳥の衝突があった空港における2007年から2011年のバードストライク年平均件数は、9.74件。また、全国各空港別に見てみると与那国空港が1位で61.15件。2位に下地島空港、4位に多良間空港と県内の空港が上位に入っている。

離島が多い沖縄では、サシバなど渡り鳥の生息する豊かな自然が多く存在する。そのためにも、自然と共存しながらの安全対策が求められるのではないだろうか。（海邦総研／安田ひろみ）



【一般粉じん発生施設の増加率】 167.3%

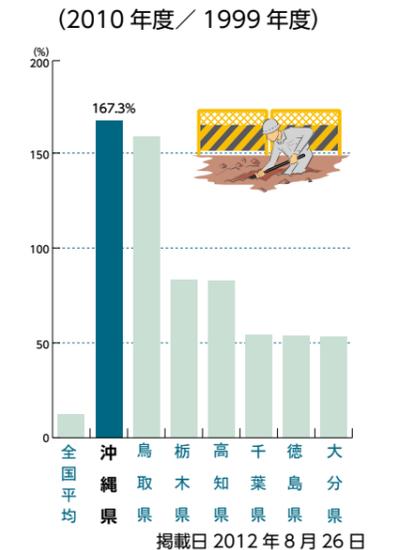
一昔前に比べて、住生活環境や道路の整備が格段に進んできた沖縄。そうしたインフラ整備に必要な施設類も同様に増加しているようだ。

環境省の水・大気環境局大気環境課「大気汚染防止法施行状況調査」によると、都道府県別一般粉じん発生施設数は10年度実績で393施設あり、99年度実績の147施設と比較すると246施設増加しており、増加率は167.3%増で全国一となっている。

大気汚染防止法では、工場または事業場に設置され、大気汚染の原因となる粉じんを発生する施設を「一般粉じん発生施設」として定めており、土石たい積場やベルトコンベア、破碎機などが該当するという。

大気汚染に結びつかせないよう環境にも配慮しつつ、おいしい空気や自然と共生したまちづくりが進むことを期待したい。

(海邦総研／比嘉明彦)

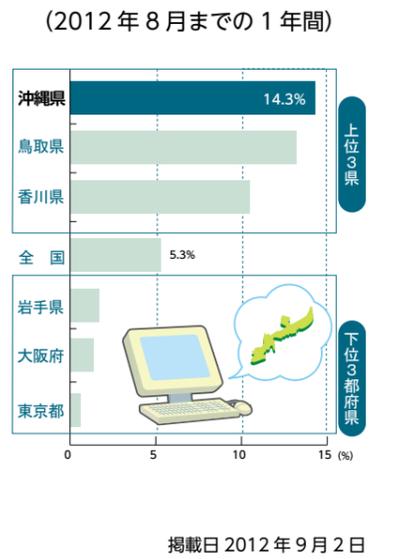


【都道府県名をキーワードにもつサイトの増加率】 14.3%

ネット上には膨大な情報が存在するが、沖縄県に関する情報は他地域に比べて多いだろうか？全国の都道府県名で検索をしてみたところ、沖縄県の件数は平均以下。だが、最近1年間の増加率では第1位だった。既に多くのサイトがあった東京や大阪の順位は低かったが、沖縄県に関連するサイトは今まさに増加中といえそうだ。

沖縄県というキーワードをもつサイトがどの地域から閲覧されたかを調べると、ほとんどが沖縄県内からだった。現状では、多くのサイトが県民向けなのだろう。僻地こそネットの強みが活かせるのに、沖縄に関連するサイトには内向きの傾向があるようだ。

北海道は沖縄同様に僻地だが、道外からのアクセスも多い。観光で有名な京都府も、遠方からの閲覧が目立つ。他地域の事例にも学びながら、ネットの強みを上手に活かしたいものだ。（海邦総研／鮫島智行）



【園芸・庭いじり等の年間行動者率】 20.8%

園芸・庭いじりといえば、代表的な趣味のひとつだろう。お気に入りの植物と装飾にもこだわった手の込んだ花壇から、ベランダの鉢植えなどの小規模なものまで、住まいに合わせてその割合もさまざまである。

総務省「2011年社会生活基本調査」によると、沖縄で1年間に園芸・庭いじり・ガーデニングを行った人の割合は20.8%。これは全国最下位の水準だ。

下位の都府県を見ると、京都、東京、大阪となっており、これら大都市に比べ自然のイメージの強い沖縄が最下位という意外な結果である。沖縄が意外と都会ということなのだろうか。

アカバナやブーゲンビリア、いかにも沖縄といった代表的な植物ももちろん良いが、「えっ、こんな植物が沖縄で育つの？」といわせる珍しい植物を育てるのに挑戦してみるのもおもしろい？

(海邦総研／瀬川孫秀)

